

令和3年度 第1回 西淀川区地域福祉推進会議議事要旨

令和3年7月28日
午後6時30分～8時
区役所5階会議室

出席委員 16名

助言者 鈴木大介さん（大阪成蹊短期大学幼児教育学科准教授）

事務局 区役所 貴志保健福祉課長、岡地保健福祉担当係長
区社協 佐藤事務局長、西川地域支援担当主査、松原

1. あいさつ

委員長 伊原委員長

2. 啓発動画について

【動画視聴】

- ・動画は13分50秒
- ・後半の4つの部会：約8分…活用可能
- ・フル（13分50分）…区役所や区社協での活用
- ・動画はもう変更不可だが、QRコードや音源等は変更可能
- ・QRコードの変更について、社協はシートで対応

3. 計画の評価について

【資料2】

- ・議論のメンバーについて
→5人～6人で外部の方にも参加してもらう必要がある
 - ・主観的また客観的の両視点で議論が必要
- ⇒11月までに事務局でメンバーや評価の方法を検討する

【質疑応答】

Q：4つの部会について、仮に名前が変わった場合はどうするのか？

A：別で説明または口頭で説明

Q：にしよど音頭の変更について

A：違和感なし

Q：にしよど音頭の記載について

A：クレジットに記載する

【DVDについて】

- ・研修で使用可能
- ・DVD×3枚 ※貸出しOK
- ・区社協と区役所のHPでも

3. 具体的な取り組みについて

【福祉語ろう会】

- ・他の3つの具現化及びコロナ禍が落ち着いてから開始 ※時期をおく

【ちょこっと♡助っ人ポイント制度】

- ・「ボランティア」という言葉は重く、敷居が高いため、名称を変更
- ・ボランティアには及ばないけれど、「隣やからやっとくわ！」や「祭りのテントだけ張っとくわ！」と いった関係性が理想
- ・活動するとポイントが貯まり、ポイントは還元される
（案）貯まったポイントは西淀川区内で使えるお金に返還 ※すぐには難しい
- ・子ども・外国人・障がい者・高齢者等、誰もが助け側になれることを理想とする
（例）気がつけばお祭りの役員になっていた
- ・気軽に参加可能な活動
（例）区内の子ども食堂や障がい者施設にボランティアとして行く
※モデル施設を募る
- ・協力施設にも主旨等の説明会が必要
- ・施設の活動内容及びボランティア紹介の一覧を準備する
- ・ポイントに関する時間単位や引き換えについては今後検討する
- ・「ボランティアをやりたいです！」という人に個人情報大切さを知ってもらう
→1時間研修は敷居が高いー（案）研修ポイントをつける
※まずは気を付けることを記載して示す
- ・子ども・学生・外国人を巻き込むことを目指す

【鈴木先生のコメント】

- ・研修が気になる
→（案）研修とボランティアの体験を一体化（体験型と参加型）

【ウェルカムバンク】

- ・支援の現状の共有
- ・当面の取り組み
ニーズ把握として、数珠つなぎインタビューを行う
- ・分かりやすい日本語
- ・イベント等があれば気軽に外国の方と知り合えるのでは？
- ・西淀川区外国人さぽーとボランティアのメンバーに声をかける

【となりのお節介】

- ・認定基準について⇒「西淀川区を愛する人」
- ・認定方法や推薦書類の項目、認定者へどうするのか、また周知の方法等については今後の検討課題
- ・インタビューを行い、お節介通信を発行していきたいと考えている
- ・交流の場、つながる場の設定等も検討課題
- ・佃に「お節介通信」がすでに存在している
→「お節介通信」については仮称であるため、名称についても検討する

【鈴木先生のコメント】

- ・当初のイメージを突き進んでいく上でのポイントになっているところが動き出し、見えてきていると感じている。
- ・数珠つなぎインタビューでは、地道に人とつながり、思いや感じている雰囲気を知る

ことができる。また思ってもいない人とつながることがある

4. あいさつ

- 西淀川区保健福祉課長：貴志嘉範
- 西淀川区社協事務局長：佐藤茂忠

5. その他

次回は 11 月頃に予定